

# 鬼明心擬

2013/2/26

「殺し」に成らぬ死刑にリヤ変り所

此の二月中旬、死刑「刑」に關し改めて考へさせられた事件が南太平洋の島で起きた。アメリカ合衆国・グアム島に於ける「通り魔連鎖刺殺」(二二日)。奇しくも九日後の未明、日本国内のとある拘留所で三殺人犯が死刑に処せられた▼

アフリカ・アルジェリア共和国に於ける「人質テロ」で殺された化学設備建設従業員達と同様、名前を表に出さずして「仕事柄、其を寧ろ誇りとして」生きて来た人々が事件の被殺者と成る事で名前・顔そして経歴を白日に晒さんとする報道媒体群には改めて憤りを禁じ得ぬ。本題に戻ろう。グアムの繁華街にて、二一歳の男が乗用車で小売店舗に体当たりし六人を撥ね降車、短刀で買い物客八人を刺し、三日本人を死に至らしめた」と云う事件。日本で起きたら、過去の判例から見ても完全に死刑と成る事件。觀光が目的とは云え無実の同胞が殺された、と云う事以上に憤りを禁じ得ぬのは、グアムでは人を殺しても「死刑には成らない」と云う事だ。復讐の代行を檢察と裁判に託したくとも託せぬ遺族方の無念、推して知るべし▼

殺人は、人が人間である事を自ら放棄し、他人が生きる権利を一方的且つ永久に奪う「悪事中的悪事」にも関わらず、合衆国は国内共通の統一刑法を定めておらず、刑法の制定を各州「又は特別区」に委ねており、少数派乍ら死刑を否定する州「又は特別区」も現に幾つ

か在る。グアムも其の一つだ。人が人間として生きる為に必要な最小限の基準に反する事の扱いが地域に拠って・国家に拠って違ふのだ▼グアム事件の九日後、日本に於ける死刑執行を受け、ドイツ連邦共和国とフランス共和国の両政府は死刑執行の停止を日本に求める声明を発表した「同二国を含む欧羅巴の此の姿勢は、明らかに聖書の「貴方の頬を打つ者に、もう一方の頬も向けなさい」旨の拡大解釈だ」。其を突っ撥ねるかの如く、法務大臣は死刑制度を見直さぬ旨を明言した▼当然だ。其の上で、日本は率先して「理性に訴えて更生する」式が原則の現行刑罰を一旦、根本から見直すと共に、死刑制度の必要性を世界にも根強く訴え「肉親を殺された遺族の代表に国際連合の議場で演説して戴くのも格好の手段と成ろう」、国連の「人権B規約」からの「死刑廃止」条項を削除し亦「国際刑事裁判所」の規定を改め戦争犯罪の首謀者に死刑を適用出来る様にすべく動くべきだ。一〇〇箇国超を敵に廻すのは辛い所だが▼他人に対し危害を加えた者には其相応の苦痛を其の加害者に与える事。其が、民主政治の理念である「公平」と「平等」に叶うと共に、被害者側の復讐の代行そして彼等の精神面の救済にも繋がる。故に、「死には死を以て償わせる」しか無く、其処に国や地域の違いが在っては成らぬ」と云う事を全日本共産党の主張として改めて認識した、グアム事件であった。

主な参考文献 「新約聖書」フランシスコ会聖書研究所・訳(サンパウロ聖パウロ修道会)一九八〇年十一月